



Title	AI×Book Creator の活用 : 大学初級外国語授業におけるアウトプットの実践
Author(s)	大前, 智美; 岩居, 弘樹
Citation	日本教育工学会 2025年秋季全国大会 講演論文集. 2025, 2025, p. 45-46
Version Type	A0
URL	https://hdl.handle.net/11094/104410
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

AI × Book Creator の活用

—大学初級外国語授業におけるアウトプットの実践—

Enhancing Student Output in In University Foreign Language Courses through AI and Book Creator Integration

大前 智美^{*1} 岩居 弘樹^{*1}
Tomomi OMAE^{*1} Hiroki IWAI^{*1}

大阪大学^{*1}
The University of Osaka^{*1}

＜あらまし＞ 本研究は、大学初級ドイツ語授業において、生成 AI と Book Creator を活用し、学生が自分自身あるいは自分の興味関心に関わるテーマでドイツ語を用いた音声・映像によるアウトプットを行う学習実践を報告する。AI による個別最適化されたテキスト生成と Book Creator による作品制作を通じて、ドイツ語の表現力と発信力の向上を目指した。

＜キーワード＞ 生成 AI, 外国語教育, プレゼンテーション, Book Creator

1. はじめに

本発表では、大学の一般教養初修外国語（ドイツ語）における生成 AI 活用とデジタルツールを用いた学習活動に関する報告を行う。

対象は大阪大学の 1 年生向けドイツ語クラスで、主に文化やコミュニケーションを中心に扱う。この授業では、学習したドイツ語を使って学生が音声でアウトプットできるようになることを目標としている。ビデオ撮影やテキスト・画像などによるプレゼンテーションを学習成果として発表し、記録して共有し、自らの成長を振り返るという活動である。

2. 生成 AI の活用

2.1. なぜ生成 AI を使うのか

初修外国語クラスでは、教科書を使って学習を進めることが多いが、教科書はさまざまな学習者が利用することを想定して構成されており、一人一人の関心に合わせた内容を網羅することはできない。しかし、生成 AI を活用すれば「自分事にカスタマイズされたテキスト」を使って外国語学習を進めることができるようになる。教科書に書かれているどこかの知らない人の自己紹介や趣味の話ではなく、自分自身のこと、自分に関心のある内容が教材になれば、外国語学習に対する関心や意欲にも影響を与えるのではないと思われる。

2.2. 自分自身の内容にカスタマイズ

筆者らは、初修外国語の初期の段階では、

さまざまな表現を見聞きしながら音とリズムに慣れ、その表現を声に出すことが重要だと考え、音声によるアウトプットを重視した授業を展開している。授業では、趣味に関する内容を含む自己紹介、自分の街の紹介、年末年始の行事などの文化伝統に関する内容、高校時代に何をしていたかといった内容で「自分のためのテキスト」を作成し、発音練習をしてプレゼンテーションを行う。

しかし、初級段階では学習者自身の力で正しいドイツ語を書くことは難しい。そこで、学習者が一からドイツ語文を構築するのではなく、既存の適切な表現をモデルとして活用することで、より効率的に表現力を向上させることを目指した。筆者らは、モデルとなるテキストを読み込ませたプロンプトや、学習者と対話しながら目的のテキストを生成するようなプロンプトを作成し、学習者に共有して、一人一人に応じた内容の生成を手助けした。また必要に応じて、文法チェックと解説、理解度確認のための練習問題を出すなどの対応もできるようにした。

2.3. 学習過程の記録

生成 AI を使った学習の過程は、チャットの内容のコピーを提出させたり、チャットを教員と共有することで確認できる。これにより、生成 AI の動きや学生の反応、課題などが可視化できる。

3. Book Creator の活用

3.1. なぜ Book Creator を使うのか

Book Creator は画像、動画、音声、イラストなどを組み合わせて電子書籍を作成することができるアプリケーションである。利用者のアイデアや考えた内容をデジタル絵本として編集して作品を作ることができる。

Book Creator を利用した活動は、文字や画像を組み合わせて、人に見てもらうことを意識した作品を作り上げることができ、達成感とモチベーションの維持につながる。これにビデオ撮影を加えることで、自分の発音、話し方を客観的に振り返る機会にもなる。

3.2. 授業実践

本実践では、日本の料理をドイツの学生に紹介するというテーマで、生成 AI を活用しながらシナリオとレシピをドイツ語にしていた。生成 AI を最初に使用する際には、あらかじめ筆者が用意したプロンプトで会話を開始し、ドイツ語のレベルの指定、プレゼンテーションの長さ、ドイツ語と日本語訳を同時に提示するよう指定した。さらに、AI が提示したドイツ語で使われている表現の確認のため、語彙リストを作成させ Quizlet に登録し、自分のプレゼンテーションのためだけの語彙学習や、わからないドイツ語文の解説を加えながらシナリオを完成させる。

発音練習をする際にも、完成したドイツ語文を入れて AI にチャックで区切ってもらい、文章を読む際に区切って良い箇所の参考にしたり、Google 翻訳アプリなどの音声入力を利用して、自分の話すドイツ語が「通じる」レベルに達するよう繰り返し練習を行なった後に、ビデオ撮影を行った。



図 1 Book Creator (おでんの作り方)

作成したドイツ語の文章や日本料理のレシピ、画像や自分の説明する動画を Book Creator 上で見やすく、伝わりやすく構成することを考え、グループごとにデジタル絵本を完成させた。



図 2 Book Creator (親子丼のレシピ)

図 1・2にあるように Book Creator の見開き 1 ページに必ず 1 つはビデオを入れて、そのページに書いた内容を説明することをプレゼンテーションの条件とした。記載した文章をそのまま読むのではなく、デジタル絵本として表現するドイツ語と話すドイツ語を試行錯誤しながら完成させた。完成したレシピ本はドイツで日本語を学習する大学生に見てもらっている。

3.3. 活動の振り返り

生成 AI や Book Creator などのツールを使い、自分の表現したい内容をドイツ語で話すことができるようになることを目標とした本実践で、学生も「どう相手に伝えるかを考えるための勉強になった」「ドイツ語で自分のことについてプレゼンした経験のおかげでドイツ語を面白いと思うようになった」「実践的なドイツ語理解でき、発音も上手になった」と感じている。自分事を発信することで、言葉をより自分のものとして捉え、学習を進めることができた。

4. まとめ

学生のアウトプットに重点を置いた外国語学習の実践はこれまでも多数行われているが、生成 AI の活用と Book Creator というツールの導入で表現の可能性が広がり、これまで以上に、言葉を使って人に伝えるということ意識した外国語学習が可能となったと言える。今後は学習成果を多くの人に見てもらう機会を増やし、より実践的な言葉の学習に発展させたいと考えている。

注

1) Book Creator : <https://bookcreator.com/>